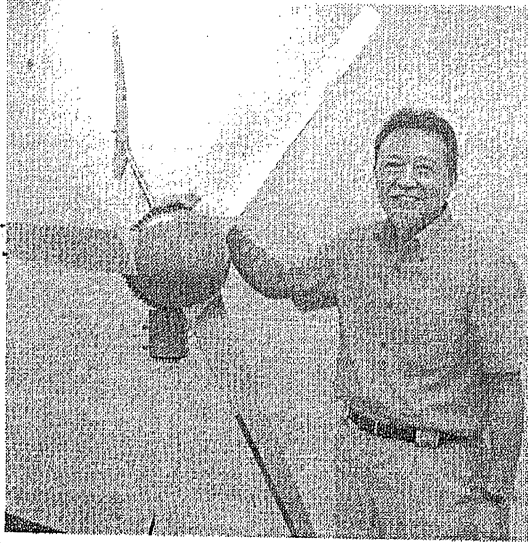


久留米の企業APECへ

10月1日にインドネシア・バリ島で開かれるアジア太平洋経済協力会議(APEC)の再生可能エネルギー部会に、福岡県久留米市の小型風力発電装置メーカー「A-WINGインターナショナル」の中村広秀社長(61)が、ゲストスピーカーとして参加する。議長国インドネシアから招かれた。経済産業省によると、国を通さず、一企業がAPECで発言を求められるのは異例という。

風力発電のベンチャー

APECにゲストスピーカーとして参加するA-WINGインターナショナルの中村広秀社長



アジア農村 生活向上に力

同社はタイ、バングラデシュ、インドネシアなど10カ国で事業展開するベンチャー企業。「電気のない所に電気を」を理念に、風速1・2級でも回る小型風力発電機を2008年から販売している。1台で途上国の農村

1家庭が使う程度の電力を供給でき、これまでに出荷した約1万台の9割がアジア向けという。年商は約2億円。

同社は国際貢献活動の一環として国内の企業や個人の協賛を募り、途上国や新興国に小型風力発電装置を計100台贈る事業を推進。アジアの農村部などの生活水準向上にも力を注いでいる。APEC会合への参加は、インドネシアで小規

模水力発電を広め、11年にアジアのノーベル賞といわれるマグサイサイ賞を受賞した非政府組織(NGO)代表、トワリ・ムンプニ氏の推薦で実現した。中村社長は、各国の環境相や政府高官に発電装置普及事業についてスピーチする予定で「一緒に小型風力発電で世界を変えましょう」と訴える。同社10942

(05) 8847。(布谷真基)